

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370901019
法人名	社会福祉法人 川崎寿松会
事業所名	グループホーム ことぶき
所在地	一関市川崎町薄衣字久伝26番地 (電話) 0191-43-2881

評価機関名	(財) 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通 3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	2月18日

## 【情報提供票より】(19年 12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 30日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9
職員数	9 人 常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 8.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( 円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円 (おやつ込み)	

### (4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立千厩病院(総合病院) 、 国保川崎弥栄診療所(歯科)
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市町村合併により、川崎村から一関市川崎町となり鴨地区の中心地で道路が整備され道の駅ができたことで、こちらが町の中心地になりつつあり本通に出なくてもスーパーで買い物が出来便利になった。グループホーム「ことぶき」は母体法人 川崎寿松会の事業所として2年前に設立された比較的新しいグループホームであり、職員の殆どは特養寿松苑の寮母経験者のベテラン揃いで、ゆったりとした中で笑顔あふれる介護をモットーに日々研鑽し、チーム一丸となったサービスの向上に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は開設後、間もないこともあり地域に密着した取り組みの遅れが目立ったが、要改善7項目12基準のうち5項目が改善され、最大課題の地域関連の課題はほぼ達成されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	熱心に取り組みが行われているが、グループホーム独自の視点に立ち、各種行事を計画、実施することで、尚一層の成果が期待出来る。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営会議は事業者側の連絡と説明が主となっているので、ホームへの理解を深める段階から一歩進んだ取り組みに期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の実施、家族アンケートなどの取り組みが出来ていないため、家族の面会時にそれらを補う方途について、もっと工夫することが必要かと思われる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	かなり改善され、努力されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由」をモットーに「笑顔あふれる日々を送っていただけるよう一人ひとりに合った生活を支援します。」を理念に掲げ、地域の方々に顔を覚えていただくために地域の中での行事の参加、スーパーへの買出し等、地域との理解を深めながら、家庭に近い環境の中で自由に生活を営むことができるよう理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日母体法人との朝礼に職員1名が参加した後グループホームでのミーティングを行い、常に安全、安心、居心地よく提供することを基本に、生き生きとした生活ができるようなお手伝いすることを共有し、実践に向けて取り組みを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会との交流の場を作り、餅つき、ミヅキ団子づくりに参加し又廃品回収にも協力をしている。今回初めて中学生の有志との交流も図られており、近隣とは顔なじみにもなり野菜等を頂きながら交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の要改善7項目12箇所中9箇所改善されている。最大の課題である地域との交流4箇所はほぼ達成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは職員2名、自治会長、民生委員、保健福祉主幹、家族会代表者2~3名を交替とし、消防署職員も参加している。警察署は仕事の都合で不参加ではあるが広報等は届けている。会議の中で、海風浴で潮風にあたり風邪防止、水虫防止にも良いという意見が出ている。今後、ドライブの際には是非取り組みされることに期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者、又はケアマネージャーとは常に電話連絡で相談をしているが、母体法人と市町村との関わりと比べると、グループホームとしての市町村との関わり・連携がまだ薄いように感じられる。グループホームとして市町村との相互理解を、より一層深める工夫も望みたいところである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等は毎月発行の川崎寿松会だよりを中心に毎月のケース記録、出納の報告(2ヶ月に1度)を含め、連絡及び話し合いを行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置、運営推進会議でも家族からの意見を求めているが家族からの意見は出ていない。また、広報(たより)を配布する際にも要望書を同封しているが、言い出しにくい面もあると理解するも、来所の際や家族面談の際に把握し、記録が肝要と思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所2年目で現在のところ異動はなく、退職者1名のみで広報(たより)でお知らせしている。現在のところ問題はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県認知症高齢者グループホーム協会、両盤ブロック職員研修会にそれぞれ参加した後は、ミーティングや講習会で周知し、内部研修、救命講習会も開催されるなど取り組みが見られる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室根の考養会、千厩寿敬会(グループホームは無し)には7~8名参加し、平泉町の「グループホーム平泉」、一関の「グループホームほっとスマイル」からの来所による交流を実施している。さまざまな情報収集をしながら積極的にサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人が家族と都合の良い日に来所されてお茶を飲みながら見学される。(殆どは入所前提となる。)居宅のケアマネ(利用者の担当者)と一緒に訪問、面接調査を行い、入居を決定するなど、適切な支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開設2年目、入居者は入院している感覚が強いので、洗濯物のたたみ等をやる方やられない方がいるが、畑の草取りや石拾いは積極的で上手である。入院ではなく日常生活を意識して頂けるよう、職員一丸となってお互いに支え合いながら感謝の念をもってケアに当たっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いの把握に努力され、カラオケに行ったり水彩画の好きな人には、家族に連絡し、道具を持ってきて頂くなど支援している。今後も益々の取り組みに期待したい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議には所長、ケアマネ、職員が出席し、内容を検討のうえ結論が出されるが、事前に家族から、電話又は来所されたときに要望等を聞き取り、施設サービス計画書を作成している。家族の意向を大切に、それを利用者との日ごろの関わりの中で反映させるよう日常の介護に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の見直しと評価は定期的に行うと共に状態の変化が生じた場合も、その都度新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人である特別養護老人ホームで受け入れが可能である。近くに昨年4月クリニックが開設し入居者と一緒に見学会にも行き、予防接種は便宜を図っていただいている。今後の医療面での対応の充実が図られると思われる。また、自主サービスとしては図書館に行ったり、初詣に出かけたりするなど、家族との思い出を思い起こせるような支援を大切にしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	東山、千厩、クリニック等それぞれかかりつけ医があり定期検診、状態の変化時も家族が対応をしている。(ケース記録を持参)後日報告を受けるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体法人の特別養護老人ホームへの早期対策を契約時に説明はしているが、方針の共有については今後の課題である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	母体法人で定めた個人情報の保護規程を入所時に家族に説明をし、推進会議では基本方針について説明をしている。利用者に対する言葉かけ、対応についてはトイレの扉の裏側に貼られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌の好きな人、ゲームをしたい人、買い物、散歩しながら毎日犬にえさを食べさせる人、意向をどう汲み取って支援していくか調整が難しいところである。午後はどうしても入浴支援が優先になるが、利用者のペースに添って見守りながら一緒に生活を送るよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の役割分担の作業は、観察することは出来なかったが食後の後片付け、食器拭き等は職員と一緒にしている。食事中も職員は適度な話をしながら、楽しくおいしくいただけるような気配りをしながらの支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴可否判定基準、マニュアルに基づき毎日入浴されている。本人が嫌がる時は次の日に入浴し、シャンプーは時間がかかるので午前中から一日おきに実施している。職員が特に、(1)本人が嫌がらないで入浴できること、(2)バイタルに気をつけること、を心がけて支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買い物には近くのスーパーへ毎日、冬は1~2名、夏は全員で散歩しながら出かける。地域の人も顔なじみになっている。時には遠出を兼ねて千厩のスーパーにも行き、見る楽しみを支援している。ゴミを捨てる日課の人、猫にエサを与える人、工夫しながら支援されている。	○	アセスメントの活用や、家族からの聞き取り等利用者の活力を引き出す楽しみごとや役割等連携と協力を得ながら、より充実した介護に役立てることが必要と思われる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへ買い物に毎日出かける。道路ひとつわたると、産直もあり時々ソフトクリームを食べるなど外出支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	チャイムは玄関と職員の出入り口2箇所に設置しており、日中は鍵をかけない支援を行っているが、職員が利用者の入浴中の手薄になったときに鍵をかけることもあるが、利用者がふいに外出しても近所の人や、スーパーからグループホームに連絡が来たりするので、地域の協力も得られ地域とも良い関係性が築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体組織と合同の訓練を実施しているが、独自のものは未実施であり、夜間を想定した昼の訓練は実際の場面ではパニックが予想されることも考慮すべきである。	○	夜間職員は一人で不安な介護に従事している。今の時期だと夕食前にも外は暗くなるので、独自で緊急連絡網を使用しながら避難訓練を実施するよう前向きな取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は、母体法人の栄養士に年2回見ていただきコメントをもらう。カロリー計算もパソコンに入力が可能である。水分は1,000ccをめどに摂取している。ケース記録で確認。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が広々とゆとりがあり、特に和室は大きなコタツが2つ設置され、食堂と共にゆったりと過ごせるよう工夫されている。居室は車椅子が可能な部屋が3部屋あり、廊下や脱衣場には長いすが置かれ、照明にも気配りが感じられる。	○	風呂場の浴槽が深く又、高さもあり利用者の入浴の際は2人がかりでも大変なようである。同法人の特別養護老人ホームの風呂に行き入浴剤を入れ、温泉気分を味わうなど工夫されている。改装となるとお金もかかることなので、何か対策、工夫を望みたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室冷暖房完備の個室となっており、家からの持ち込み自由で、テレビ、衣装ケースなどが置かれてあった。ベットや洗面台がついており、中には、床に直接布団を敷いてる部屋もありきれいに整理、整頓されていた。		